

シッコ

2007(平成19)年7月31日鑑賞(試写会・大阪厚生年金会館芸術ホール)

★★★★★



監督・脚本・製作＝マイケル・ムーア（ギャガ・コミュニケーションズ、博報堂DYメディアパートナーズ、powered by ヒューマックスシネマ配給／2007年アメリカ映画／123分）

……今やブッシュ政権から目の敵とされてしまったマイケル・ムーア監督の最新作は、国民皆保険制度がなく、健康保険充実度世界37位というアメリカの医療の実態を、情け容赦なくグリグリとえぐりだしたものだ。アメリカ vs. カナダ、イギリス、フランスそして何と仮想敵国キューバの医療をめぐる実態は……？ 日本では「医療関係者必見！」と宣伝されているが、まさにそのとおり！ もっとも、検討の視点は必ずしもムーア流一辺倒ではなく、小泉改革の意義やフランスのサルコジ大統領路線などを複眼的に考えたものにする必要あり、と私は見たが……？



クリントン大統領の公約はどうなったの……？

モニカ・ルインスキーとの「不適切な関係」で大いに名前を売った(?)のが、ケネディ大統領に憧れて政治家を志し、1992年にアメリカ合衆国大統領となったビル・クリントン。若きクリントンが、大統領選挙で公約として掲げたのが国民皆保険の創設で、大統領就任後、妻のヒラリー・クリントンをそのリーダーに任命した。しかし、2期8年の大統領在任中、その実現はなかった。それは一体なぜ……？

その最大の原因は、共和党や民主党の大物政治家と手を組んだ大手保険会社の猛反対にあったため。そこで、大手保険会社はなぜ国民皆保険に反対したの……？ それは、2001年4月から始まった小泉改革最大の目玉である郵政民営化に誰が反対したの、を考えると同じ視点で、あなた自身よく考えてみる必要がある。

しかして、2008年の大統領選挙に向けて今、民主党の指名をオバマ氏と争っているヒラリー・クリントンの公約に国民皆保険の実現は……？ ちなみに、『シッコ』

第5章

これこそ本当のおススメ！

によると、今やヒラリー・クリントンですら大手保険会社から多額の政治献金を受けているとのことだから、彼女の国民皆保険実現についての現在の熱意度は……？

カナダとアメリカの違いは……？

ムーア監督のドキュメンタリー映画が面白いのは、よくぞそこまで撮ったなと感心させられるシーンが多いこと。ムーア監督が呼びかけた体験談募集への応募は、最初の1週間だけで2万5000通に及んだとのこと。映画の冒頭、その中からいくつかのひどいケースが紹介される。プレスシートによると、「撮影日数は130日を超え、トータルで500時間以上に及ぶ映像が収録された。取材した話は150から200件」とのこと。自由の国、豊かな国アメリカの、良くも悪くもこれが医療分野での実情というわけだ！ もっとも、これだけでは単なる体験談の寄せ集めにすぎないが、ムーア作品がすごいのは、違法スレスレあるいは明確に違法なことでも堂々とスクリーン上に登場させること……？ カナダの国境近くに住むある女性は、アメリカでの高い治療費を避けるため、国境を越えてカナダ人の男性と内縁関係にあると偽って、基本的に無料というカナダで治療を受けるというウルトラCを……。カナダではなぜ医療費が基本的に無料なの？ それは、プレスシートやネット情報をきっちと調べてみて……。

イギリスのNHSとは……？

アメリカ人でありながら、アメリカという国の医療の実態に失望したムーア監督が偉いのは、学習意欲が旺盛、そして行動力が抜群なところ。カナダでは基本的に医療費がタダということに驚いた彼は、今度はイギリスに飛ぶことに……。

早速取材を開始すると、イギリスにはNHS（National Health Service／国民保健サービス）という制度があることがわかった。これは、1975年に設立された国民健康保険制度で、WHO（世界保健機構）も最も優秀なヘルスケアシステムのひとつに挙げているとのこと。ちなみにイギリスでは、ドイツの空襲によって大被害を受けたロンドンを中心とする国土の復興がスタートしたばかりの1947年頃から、国民皆保険が目指されていたらしい。

フランス イズ No.1

イラク戦争をめぐって、世界の憲兵アメリカと最も協調した同盟国がイギリスなら、

最も強くアメリカと対立した国が誇り高き国フランス。シラク大統領に代わって、2007年5月6日、ロワイヤル氏を破って第6代大統領となったサルコジは、今アメリカ型の市場主義を取り入れようとしているが、それはあくまで部分的、限定的なもので、根本はあくまでフランス流……？

フランスでは週35時間労働、バカンスは2カ月、有給休暇は〇カ月、産前産後休暇は〇カ月そして新婚旅行も有給休暇オーケーと至れり尽くせりで、人生は楽しまなくっちゃと堂々と言えるのは一体ナゼ……？ 働きバチと言われる日本人がフランスから学ばなければならないことは多いが、それはアメリカ人も同じ……？

フランスの健康保険制度はWHOによると世界No.1とのこと。『シッコ』を観て驚いたのは、病院の診察時間外でもダイヤル15を回せば、ドクターが往診に駆けつけてくれる制度まであること。もちろん、医療費は基本的にすべてタダ。ところで私が心配するのは、イギリスでもフランスでも国民健康保険を支える費用はすべて税金から充てているはずだが、その収支はうまく合っているの……？ 『シッコ』はそこまで突っ込んだ分析をしていないのが少し不満だが、そんな実態に驚くとともに、大いに参考にしなければならないことはたしか。



「刑務所の方がマシ」は、日本もアメリカも……？

アメリカ人は病気が多く、平均寿命が短いのは、あの不健全な食生活にあることは明らか。日本でも高血圧や糖尿病をはじめとする多くの病気が飽食に浸る生活のせい。そんな場合、実は最も良い治療法は刑務所に入ること……？ かつての田中角栄総理にしても、近時のライブドアのホリエモンこと堀江貴文社長にしても、基準カロリーの食事と規則正しい生活を続けたうえで拘置所から保釈で出ると、そのダイエット効果は明らか……。

『シッコ』を観て驚いたのは、キューバの南東に位置するグアンタナモ米海軍基地に収容されているテロリストたち凶悪犯に対して、最高の医療が提供されていること。よくまあこんな映像が撮れたことだと感心したが、さらにムーア監督が偉いのは、すごいアイデアを思いついたこと。そのアイデアとは、グアンタナモ米海軍基地の医師たちにアメリカ国内で治療を拒否されたアメリカ人に対して、収容されている凶悪犯と同程度の治療をしてくれと頼みに行くこと。早速ムーア様ご一行は、船を2隻も仕立てて、意気揚々とグアンタナモ米海軍基地に乗り込み治療を求めたが、さてその結

果は……？

もっとビックリ！ キューバでの取材！

『シッコ』の製作・公開については、2007年5、6月にかけてキューバでの撮影をめぐって財務省から調査が入ったり、プリントの差押えを恐れてカナダにフィルムを隠したり、さまざまなハプニングが続出したとのこと。キューバで撮影するのにどんな手続が必要なのかはわからないが、『シッコ』に登場する社会主義国キューバの医療制度の実態にはとにかくビックリ！

北朝鮮が金王朝と言われるほど腐敗・疲弊しているのに対し、同じ社会主義国であるキューバの医療制度はホントに『シッコ』に描かれているような理想的なものなの……？ 半信半疑に思う面はあるものの、多分ホント……？ アメリカから渡ってきたアメリカ人でもタダで丁寧な治療を受けることができ、アメリカでは120ドルもする薬が5セントで買えるのであれば、多くのアメリカ人がどっとキューバの病院を求めて流れていく可能性もあるはずだが……。

日本の医療保険のあるべき方向は……？

2007年7月29日の参議院選挙で歴史的な大敗を喫した自民党は、直ちに安倍総理が「続投」を表明したが、今後の政局は波瀾含み……。小泉改革最大の目玉はもちろん郵政民営化だったが、医療構造改革も重大な小泉改革の1つ。小泉構造改革の基本原則は「官から民へ」ということだから、医療改革の内容は受益と負担のバランス＝患者の自己負担増の他、医療分野における規制緩和と市場原理の導入。より具体的に言えば、保険外併合療養費（実質的な混合診療の解禁）と株式会社病院の創設ということだ。これらは、もちろん国民健康保険制度をやめることを意味するものではないが、医療関係者の間でもその賛否は大きく分かれている。

医療の分野には競争原理は適さないというのもしかたに正論だが、逆に医療保険が非効率で赤字無視の親方・日の丸式経営を続けたのでは具合が悪いことは明らかだから、医療の分野への市場原理の導入、競争原理の導入という小泉医療改革の是非論は、冷静に議論しなければならない難しいテーマであることは明らか。

プレスシートにある、三浦清春氏（全国保険医団体・理事）のコラム「日本の医療改革に警鐘を鳴らす『シッコ』」は、小泉流の医療改革反対の立場を明確にしたもの

だが、国民皆
保険制度の維
持のためには、
赤字を垂れ流
すことなく、
効率的・正常
に運営される
ことが大前提。
なぜなら、い
くらでも税金



で負担せよという議論が無茶なことは明らかだから……。

その大前提を押さえたうえで、国民皆保険が国民にとって不可欠な制度であることは明らかだから、その意味でこのコラムのサブタイトルである「医療従事者のみならず、多くの日本人が必見の映画」は、まさにそのとおり！

ムーア監督も「早死タイプ」だが……？

競争原理が徹底しているアメリカでは、有能なビジネスマンや政治家など各界のトップリーダーは健康であることが第1条件だから、食事と運動に大きな注意を払っているのが大きな特徴。ムーア監督が嫌がるブッシュ大統領もその典型で、毎朝（？）のジョギングは欠かさないとか……？

それに比べれば、アメリカの医療保険制度がいかに劣っているかという大テーマに切り込んだムーア監督自身があんな体型では、具合が悪いはず……。なぜなら、あんな太っちょの体型は「早死タイプ」であることは明らかで、きっと保険加入も「TOO FAT」という理由で拒絶されるはずだから……。そう思っていると、チラシによると何と彼はこの映画の撮影中20kgのダイエットに成功したらしい。すなわち、「別人のように痩せたムーアは、警戒されることもなく、アポなし取材先エントランスをなんなくスルー！ のおまけつき」と書いてある。もっとも、私の目には残念ながら「別人のように痩せた」とは見えなかったが、さてあなたの目には……？

2007(平成19)年8月1日記